

体験記 ライティング支援連続セミナー 知識と言葉をめぐる冒険

自分を守る「情報リテラシー」Lesson1
情報の山で迷わないために

図書館情報メディア系
逸村裕 先生

中央図書館ラーニング・アドバイザー 赤木紗菜 さん（人間総合科学研究科）

良いレポートとは、なんでしょう？それは読む人の事を考えてあるレポートです。

良いレポートというのは形が綺麗で読みやすいです。そのためには書式を守ることが大切です。レポート出題者の好みにもよりますが、表紙の有無や文字の大きさ、フォントの指定などルールを守ることが大切です。

それでは学術論文はどう書けばよいのか、話題は構成の話に移りました。先生はレポートでも論文でも、1つのレポート/論文で1つの話を論じなくてはならないと述べ、全体を貫くストーリーが肝要だともおっしゃっていました。また、考察という言葉は英語だと“discussion”といます。つまり先行研究や調査・実験を行って得られた結果から「どういう議論ができるのか」が考察で書くべきこととなります。私たちもレポートや論文を書くときに頭に入れておくべきではないでしょうか。

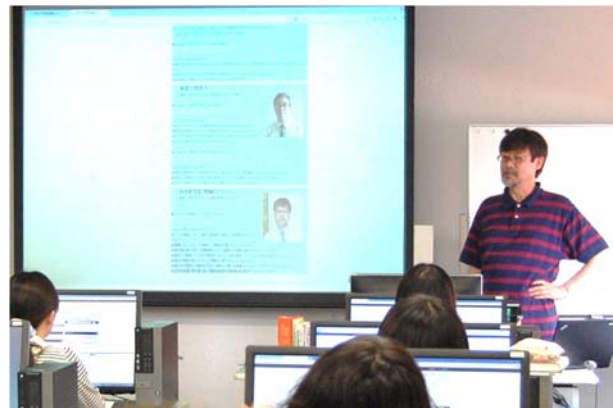
また現代社会の情報の山で迷わないで良いレポートを書くためには、文献を探し、評価し、活用することが大切です。今回は論文作成の際に必要な先行研究と引用・参考文献についてお話をいただきました。

まず先行研究で論文を検索するときには、私たちはたいして「こういう論文が読みたい」と考え（情報要求）、そういった論文が見つかるようなキーワードを考え、データベースなどで検索を行い（検索質問・検索式）、その検索結果から役立ちそうな論文を探します（検索された文献）。

ところが、本来必要な適合性（情報要求と検索された文献が一致すること）と実際の適合性（検索質問・検索式と検索された文献）にズレが生じることがあります。つまり、読みたい論文を検索する際に、一度キーワードに置き換えて検索を行わなければならないため、私たちがはじめに想像した「読みたい論文」のイメージと「実際に検索して出てくる論文」は必ずしも一致しないのです。また、検索を行う上で、キーワードの特定性の高さも重要です。例えば研究者の名前から論文を検索するとき、「逸村」という比較的めずらしい姓の研究者なら、すぐにこの人だ！と見つけることができるけれど、「佐藤」など同姓の人が多数いる場合は姓だけでは特定しにくいということです。先行研究などを検索するときにはこ

ういったことに気をつけたいですね！

そして引用というコピー&ペーストを連想してしまい（私だけでしょうか…）、あまり良くないイメージがありますが、引用とはニュートンの言葉を借りれば、巨人の肩に乗って遠くを見ることだそうです。先生は大学でのレポートでは引用は必須であり、無断するのが当たり前ともおっしゃっていました。このことは著作権法にも記述があるのでこれからは安心して引用ができますね。



そもそも引用とは他人の考え、言葉を自分の文章（論文・レポート）内で利用することです。引用の仕方様々で、直接言葉を引用するのはもちろん、引用元の言葉を言い換えたり要約したりすることも引用に含まれます。

その際出典を明記したり書式を変えたりするなど、明瞭な区別が必要ですが、一般的知識は出典を示す必要はありません。ただし分野によって一般的知識というのは多少変わります。

他にもセミナー中は文献リストを作成するのに役立つ参考図書を紹介してくださり、剽窃問題についても述べられていました。まさに「知識と言葉をめぐる冒険」の最後にふさわしい内容でした。ありがとうございました。



これまで開催したライティングセミナーの概要や講義資料は Web ページでチェック！



http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/writing_seminar/chishikitokotoba.html

春の連続セミナー如何でしたか？秋のセミナーにもご期待下さい！

2014/08/22 発行